

1. 研究活動

作品発表			
クラリネット、ピアノ、エレクトロニクスのための < Spakling in the Space I >	2011. 5.	名古屋芸術大学 音楽講堂	本学と姉妹校提携をしているパリ・エコー・ノルマル音楽院との交歓演奏会。 本作品は Acoustic サウンドに様々な電子変調によって作られた電子音、並びに Max Msp による Real-time processing を加え、新たな音の世界を構築した。演奏は Cl 竹内雅一、Pf 山田敏裕、音響・岡野憲石、MaxMsp・吉川
			敦 (再演) duration 12'ca.
チェロとピアノのための 「心象風景 I」	2011. 11.	東京 オペラシティリーサイタルホール	日本現代音楽協会・秋の音楽展 アンデパンダン展にて発表。冒頭に提示される動機群が変容を重ねながら、全曲を構成している。 演奏は Vc は安田謙一郎、Pf 松山元。(初演) duration 15'ca.

クラリネット、ピアノ、パーカッション（シロフォン・マリンバ・ヴィブラフォン）のための「相克の時」	2012. 1.	アントワープ音楽院	本学と姉妹校提携をしているベルギー、アントワープ音楽院との交歓演奏会。 クラリネットとヴィブラフォンで開始される様々な断片的な音群と、ピアノのリードによって提示される、簡素な動機群が、発展的融合を繰り返しながら構成された作品。演奏は、Cl. 竹内雅一、Pf 山田敏裕 perc. 高口かれん（初演） duration 12'ca.
クラリネット、ピアノ、パーカッション（シロフォン・マリンバ・ヴィブラフォン）のための「相克の時」	2012. 1.	レーメンズ音楽院	本学客員教授のヤン・バンデル ロースト氏の本務校であるレーメンズ音楽院での作品演奏会。作品詳細については、同上。（再演） duration 12'ca.
4人に奏者とエレクトロニクスのための＜ Spakling in the Space II ＞ －鎮魂の時－	2011. 3. 11	愛知県芸術劇場 小ホール	カレードスコープ2012＜音とテクノロジーの地平線を求めて＞にて発表。「鎮魂の時」とは、2011年の東日本大震災の鎮魂という意味である。Sopのヴォカリーゼで奏される響きを核にして、それに各楽器、声が、エレクトロニクスにより可変されたサウンドが、絡んでいく。全体のトーンとしては厳肅な音像を目指した作品。演奏はアンサンブル・ノマドのメンバーによるものである。 Fl. 木ノ脇道元・Vc 松本卓也・perc 宮本典子・Sop, 天羽明恵（初演） duration 14'ca.
CD 録音			
クラリネット、ピアノ、エレクトロニクスのための＜ Spakling in the Space I ＞	2011. 11	碧南市、エメラルドホール	2010年1月に初演した本作品のレコーディング。 duration 12'ca. 曲目説明は前掲 Ton Meister Eberhart Hinz Cl. 竹内雅一 Pf 山田敏裕 音響・岡野憲右、MaxMsp・吉川敦
チェロとピアノのための「心象風景 I」	2011. 11	碧南市、エメラルドホール	2011年11月に初演した作品のレコーディング duration 13'ca. 曲目説明は前掲 Ton Meister Eberhart Hinz VC 安田謙一郎 Pf 松山元

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 ■有 □無

授業科目 作曲法研究IV		学生の、専門基礎部分の能力が落ちており、これをカバーするために、授業内で音楽理論を始め、様々な内容を加えての授業展開が必要となってきた。このために、本来必要な授業内容の達成が危ぶまれてきている。今後専門科目の教育内容の充実を図るためには、専門基礎科目の位置付けを再考し、入学前教育や休暇中の特別授業の実施を通じて、これの強化の必要があると思われる。
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
作曲理論コース4年次の専門科目である。個々の学生に対し、卒業作品をにらみながら、12音技法の基礎や、複調など現代の新しい音の響きを、実例を示しながら、授業を展開していく。また、夏休み前には、1つのスタイルを決めさせ、室内楽作品を書かす。	現代作品の、スコア、CD.	

授業科目 対位法	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
演奏学科が対象であるため、対位法の概論的な授業を展開していく。前期では最終的に、2声の純粹対位法（華麗対位法）を実習させる。後期は2声のインベンションを一定の書式で実施させる。対唱をこちらで与え、経過句は反復進行による和音進行を基本とすることで、初心者でも作りやすいよう配慮した。さらに、本年は、主音による保続音上のコードについて、詳しい説明を加え実習させることで、より音楽的なインヴェンションを作れるよう、工夫した。	ホセ・イグナチオ テホン「パレストリーナ様式による対位法」 バッハのインベンション、パレストリーナ作品の楽譜。
授業科目 音楽制実習Ⅱ	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
本科目では、基本的にはカレードスコープへの作品提供を目指す。履修コースの学生の中にはポップスに傾倒している学生もいるが、映像とのコラボレーションや新しい音楽、音の考え方を、断片的な実例を示す事を通じて、よりアート性に富んだ音楽作品が作れるよう工夫した。	各種音源。MaxMsp.その他の電子デバイス
授業科目 作曲法研究Ⅲ	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
本科目では、個々の学生の能力に合わせ、作曲理論の不足部分をおぎない、並行して、無調音楽の理論的理解や、様々な現代の作品を紹介しながら、現代の多様なスタイルによる断片的作品を書かす。	現代作品の、スコア、CD.
授業科目 音楽応用演習Ⅱ	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
音楽療法コースのための本科目では、和声学、ソルフェージュの内容に加え、各学生が音楽療法の実習で使える、即興演奏、伴奏付けなどを、学ばせる事を試みた。その結果、音楽の理論が実際の音楽の中で、以下に重要な要素であるかが、学生の中にしっかりと認識された。	和声学Ⅰ 本学発行のも課題集。

3. 学会等および社会における主な活動

カワイ音楽コンクール 中部本選会	2010. 4.	審査員
2007 カワイドリマートンコンクール地区本選会	2010. 4.	審査員 講評
ヤマハグレード試験 3,4,5,級	2011. 4. 1 ~ 2012. 3. 31 現在に至る	試験官
日本作曲家協議会	2011. 4. 1 ~ 2012. 3. 31 現在に至る	会員
日本現代音楽協会	2011. 4. 1 ~ 2012. 3. 31 現在に至る	会員